

学校災害の専門家

国レベルでの調査が必要

には限界がある。検証の過程で学交割の過失率

任が明らかになれば、民

事訴訟などで責任を追

及ざれる恐れが出るため

—ジレンマを解消する手段はありますか。

■制度検討の時期

「多数の犠牲者が出て

航空機事故や鉄道事故

は、当事者の過失を免責して原因を追究、再発

して頑固を追求し、再発防止策を講じる国レベルの事故調査システムがまだ確立されていない。

う例は。

「いじめ自殺では、弁

護士による第三者機関

を設ける例が全国的に増えてくる。兵庫県川西市

ではいじめに限らず、専門家が多様な相談を受け付けています。兵庫県川西市

石巻・大川小被害 市教委 来月再び説明会

避難行動の検証報告へ 「学校に不利でも明示を

東日本大震災の津波で児童、教職員計84人が死亡¹し、行方不明になつた石巻市大川小の被害を検証している市教委は来年1月、遺族にあらためて説明会を開く。「当時の状況が分からず、納得できない」という遺族の不満を受け、8月下旬に聞き取り調査を再開していた。避難行動をめぐり、市教委がどんな認識を示すのか、検証を望む遺族は注視している。

会を1月22日開くとの
通知だつた。

の防災教育についても説明する」と話す。

ることなどを呼び掛けてきた。「前例のない大災害も立場を超えて一緒に検証する必要がある」としているが、

実現していない。
3年生の娘を失った父親も、境教育長や龍山総石巻市長に直接、検証を求めてきた。「当日の行

「言ハ沢ばかり」
校に不利な内容でも明らかにしてほしい」と訴える。



これまでの市教委の説明や児童らの証言によるところ、子どもたちは午後2時46分の地震発生後、校庭に避難。同2時52分には大津波警報発令を伝える防災無線が校庭に流れた。津波は同3時37分ごろ、学校周辺に到達したとみられ、児童らは北上川沿いの堤防道路への避難中に巻き込まれた。